



**基本理念** この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

**あしびなあOTのご紹介**

作業療法士長 戸沢 美希

琉球病院のリハビリテーション棟、通称「あしびなあの森」は精神科作業療法の活動拠点です。名前の由来は沖縄方言の「あしびな一」＝遊び場・憩いの場から来ており、「誰でも気軽に立ち寄れる場所」として名付けられました。ホールと数か所の部屋で構成されており、2つある中庭からは赤瓦を超えて広い青空を眺めることができます。

「生活リズムの安定」「信頼できる人間関係の構築」「病気との付き合い方の学習」「仲間との協力・交流」などを目的として、主に8名の作業療法士、2名の作業療法助手によって様々な活動を提案しています。その他にも、看護師、心理士、栄養士、薬剤師など多職種の方に活動をサポートしていただいています。

参加される方からは、「今日はあしびなあ?」「次はいつ?」など楽しみにしてくれている声が多く聴かれます。私たちも場所や活動を通じて気持ちが安定できる一助となることを嬉しく思い作業療法を行っています。詳しく知りたい!参加してみたい!など興味を持たれたら遠慮なく作業療法士にご相談ください。

プログラムの一例

プログラム(一部)	内容
cafe あしびなあ	音楽を聴きながらゆっくりと過ごします。天気の良い日には中庭で過ごすこともできます。
いいあんべえ (リラクゼーション)	自分の状態に意識を向け、体や気持ちの変化を感じます。ストレス対処や気持ちを切り替える方法を見つけます。
ゆいま〜る (共同課題)	退院後、仕事をすることを目標とした人たちが集まり様々な作業活動を行います。
ナイスショット!	運動不足解消のために体操やグランドゴルフを行います。



作業療法で作った作品例



あしびなあホール



中庭

● 地域連携室だより

精神保健福祉士 松田 司

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。一般精神をはじめ、アルコール依存症を含むアディクション全般、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、うつ病への治療として反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)、認知症、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。また、中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい医療を提供し、適切な対応ができるよう心がけております。

初診はじめ、受診については予約制となっておりますので、ご相談はお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。

院長



ふくじ やすひで  
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本森田療法学会理事。日本病院・地域精神医学学会理事。琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353床

- ・精神 151床 (一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15 (土・日・祝日・年末年始以外)  
TEL 098-968-2133(代)  
内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550  
FAX 098-968-7370

## 治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



## クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年からクロザピン(CLZ)治療を開始し、登録症例数は延べ444例になりました。2025年9月のCLZ登録症例は2例で、いずれも他の精神科病院に入院中の患者さんでした。CLZ導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動が消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ(<https://www.drs-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>)でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

## 精神科急性期病棟のご紹介

東Ⅰ看護師長 湧川 傑

当病棟は、平成31年4月から精神科急性期病棟(スーパー救急病棟)として運営しています。入院患者は精神科急性期特有の陽性症状や著明な陰性症状を呈しているため、リスク管理を中心とした精神科治療が優先され、時に患者さんの安全を守るために治療上の指示に基づいた行動制限やセルフケア援助を中心とした手厚いケアを必要とします。また、3ヵ月以内での退院を目指し日々、精神症状や人格特性への理解、観察力や状況判断、リスクアセスメント能力、コミュニケーション能力等、多職種と連携し医療を提供することが求められます。当病棟の使命は、病院理念「この病院で最も大切な人は医療を受ける人である。」とあるように患者さんに寄り添い、早期から効果的な治療を提供することで、精神症状からの回復を支援し、社会復帰を促進していくことです。これからも患者さんに寄り添い、多くの患者さんの回復を支援していきます。

## 精神科地域包括ケア病棟のご紹介

東Ⅱ看護師長 宮城 尚子

精神科地域包括ケア病棟とは、精神疾患を有する患者さんが地域に移行・定着できるよう支援するための病棟です。おもに急性期治療を終了した患者さんに対して、地域生活への移行を支援する重点的なサービスが提供されます。そのため、入院時から多職種が協働して患者さんの希望や状態に応じて、退院後の療養生活を見据え、必要な療養上の指導、服薬指導、作業療法、相談支援、心理支援などを行っています。退院後は、自宅やグループホームなど生活の場は多岐に渡るため、訪問看護、訪問診療体制を強化し、地域での安定した生活を支えるよう特定看護師の参画へ取り組んでおります。

## バイキング・お楽しみ食事会の取り組みについて発表しました

管理栄養士 村上 悠華

9月に開催された第21回九州国立病院管理栄養士協議会栄養管理学会にて努力賞を受賞したため報告いたします。演題は「患者満足度向上を目指したバイキングの再開に向けた取り組み」です。当院では入院期間が長くなることも多く、食事は日々の楽しみとして重要な役割があると考えています。入院中の食事をより楽しんでいただけるように、コロナウイルスの影響で縮小されていたバイキング・お楽しみ食事会を再開いたしました。安全に食事を楽しんでいただくため厨房スタッフはもちろん、看護師、作業療法士、療養指導室スタッフ、事務職員などたくさんの職種と協力し無事に長期療養病棟で実施することができました。当日は、患者さんが希望されたメニューを中心に豪華な献立となっており、バイキング形式でいつもとは違う雰囲気みなさん楽しそうに召し上がられていました。ほとんどの方が完食され、「大変美味しく食べられた」「またやってほしい」などお褒めの言葉も多く寄せられ、実施後のアンケートでは満足度90%以上と好評でした。今回の発表では、バイキングを再開できたこと、アンケートや喫食率など満足度調査を行っていることを評価いただきました。今後も入院中の食事をお楽しみいただけるよう継続してバイキング・お楽しみ食事会を実施してまいります。

